

先進国→新興国→発展途上国→後進国へと経済や流通は伝承（より上位レベルの現象を未発展国へのノウハウとして伝えていくこと）されて行きます。このプロセスは単に模倣するとか、パクると言ったものではなく、人類不変の原則であり、先進国の義務でもあります。

国が異なると政治・経済・文化も異なります。それは「**経済時差**」（経済の発展レベルが異なるから国別に異なる）と「**国情格差**」（国が持つ特殊ゆえに国別に異なる）の2つの要因によって発生します。

我々の流通に関して言えば、後発国（新興国、発展途上国、後進国の総称）のニーズは、先進国のニーズを追いかけるといえる意味においては基本的に同じですが、経済時差や国情格差によって、必ずしも先進国と後発国が同じニーズ構造を歩むとは限りません。

その後発国のニーズ構造は、次の5つの内容を持っています（六車流：流通理論）。

### ①プロセス定番ニーズのライフサイクル

プロセス定番ニーズとは、まさに経済時差によるニーズ構造であり、先進国のニーズ構造のプロセスの後期追従であり、後発国の所得レベルが高まるにつれての生活向上関連消費です。人々は「食べる生活」から「ファッション（着る）生活」、さらに「テレビ・冷蔵庫等の電化による利便生活」「自動車によるプライベート交通手段生活」「住宅快適生活」「娯楽生活」「教育・文化生活」「精神・安全生活」…へと続きます。

### ②プロセス省略ニーズのライフサイクル

プロセス省略ニーズとは、先進国が歩んだ道を技術レベルの発展や意識レベルの変化によって後発国では省略するニーズのことです。例えば、音楽ビジネスはレコード→テープレコーダー→CD→ネット配信へと先進国は進みましたが、後発国はCDから始まり直ちにネット配信へと進み、レコード、テープレコーダーの時代はありません。これは、テレビ、携帯電話、コンピューター、自動車等の技術型ビジネス社会でも起こります。

### ③プロセス加速ニーズのライフサイクル

プロセス加速ニーズとは、先進国で起こったニーズが、先進国でのプロセス時間よりはるかに速いスピードで後進国で発展するニーズのことです。

例えば、ファッション分野では、アメリカや日本のファッションショップが中国や後発国で同時に展開されていることです。これも多くの分野で後発国で出現している現象です。

### ④プロセス例外付加ニーズのライフサイクル

プロセス例外ニーズとは、先進国のニーズプロセスに関係なく、後発国で独自に付加される消費構造です。これは国情格差から起因するもので、後発国で事業を展開する際に、後発国の特性をニーズに付加すると有利に事業が展開できます。

### ⑤プロセス先行ニーズのライフサイクル

逆に、後進国ではあっても、特定分野においては先進国より進化しているものがあります。この後進国のほうが優位な分野を、先進国は取り込むことで有利に展開できます。

このように、後発国のニーズは先進国から見ると「プロセス定番ニーズ」「プロセス省略ニーズ」「プロセス加速ニーズ」「プロセス例外付加ニーズ」「プロセス先行ニーズ」の5つのパターンがあります。この5つのニーズ構造を先進国から事業展開として用いる戦略を「ニーズ&トレンドのライフサイクルマネジメント」（商品面からのビジネスチャンスの探索手法）と言います。

このニーズ&トレンドのライフスタイルマネジメントを行うと、中国のニーズ構造の現在及び未来が可視化され、エアポケットを見抜くことができます。中国の巨大なマーケット（13億人の人口、さらに今後の経済力の発展）も、時代格差としては日本の1970年代の初めで、日本と中国の経済発展レベルは現状で40年ですが、未来思考（今の日本に追いつく時期）で10年と見るべきです。

このモダン消費とポストモダン消費、さらにはニューモダン消費の日本から後進国へのニーズの時間差に基づくニーズのライフサイクルマネジメントは、日本企業の後進国進出において大きな役割を果たします。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>

代表 六車 秀之